

# 北陸電が過去最高益

## 2年ぶり黒字 燃料費反映で差益

### 中間決算

北陸電力(2023年9月中間・連結) 4月に自由料金、6月に規制料金を引き上げたことなどから4年ぶりの増収増益、2年ぶりの黒字となった。売上高、経常利益、純利益ともに過去最高だった。

小売料金の改定によって500億円程度、送配電網の利用料「託送料金」の改定でも100億円程度、利益を押し上げた。

燃料費調整制度で上昇値

向の燃料価格が料金に反映されるまでにタイムラグがあることから、前年同期は約

### 北陸電力連結中間決算

売上高	407,921	(8.8)	840,000
営業利益	75,012	(-)	45,000
経常利益	70,003	(-)	40,000
純利益	51,188	(-)	30,000
配当			0円
			7.5円

注：円、カッコ内は前期比増減率。%

440億円差損が発生したが、今期は下落に転じたために約320億円の差益が生じた。下期は再び燃料価格の上昇が予想され、300億円の差損が発生する見込み。通期業績予想は経常利益

### 改定なければ赤字

塚本明・執行役員福井支

店長 前期からの聖域なきコストダウンの継続や料金改定による増収も



の250億円から400億円に、純利益を200億円から300億円に上方修正した。その結果、未定としていた期末の配当は7・5円とした。

総販売電力量は、春先の気温が高かったことによる暖房需要の減少や新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴って外出機会が増加したこと、前年同期比16・2%減の137億1千万時だった。

(渡辺亮)

あって黒字となったが、料金改定がなければ今期も赤字だった。燃料価格が前年に比べて大幅に低下したことが増益の要因となったが、冬季の燃料価格の上昇で今期のプラスは相殺されると見込んでいる。